



# 海外

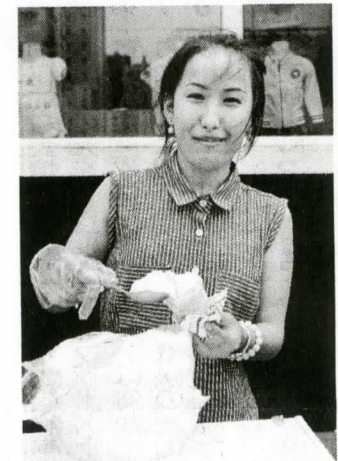


左右対称に広がる新市街地。中央の青い丸屋



街のシンボルで、金の球体が載るタワー「バイテレク」

「平和案内」マディ



路上でアイスクリームをコーンに盛る女性店員

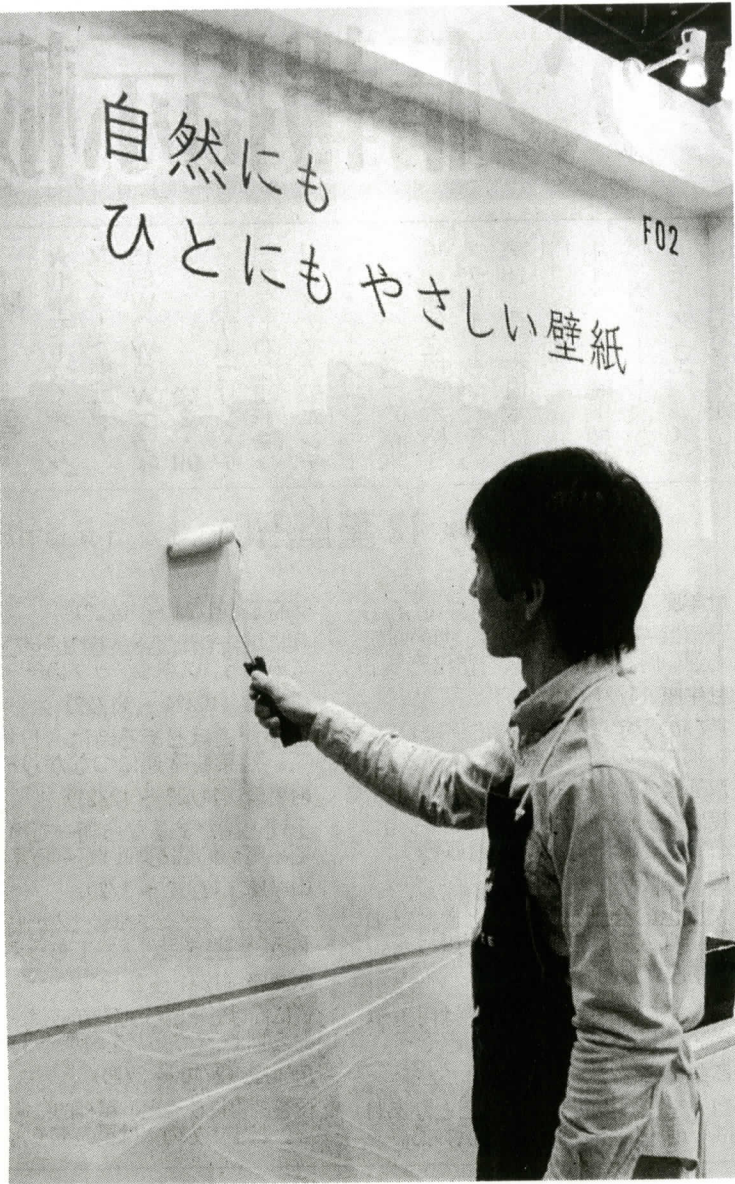
英建築家フォ... 化施設「平和...  
新市街地から車で北へ約15分、街を流れるイシム川を渡って旧市街地に足を延ばした。今度はず連時代の古びた街並みが

# エコな建材で注目

新築やリフォームの際に出る膨大な建設資材の廃棄物。ごみを減らし、再利用することが求められる折、剥がさず上から塗り替えができる壁紙、新聞紙から作る断熱材など、石油系の原料を使わず廃棄物をできるだけ出さない、エコな建材が注目されている。

市場の大半を占めるビニールクロスは一般的に表面がビニール、裏面が紙でできている。価格が手頃で扱いやすいが、張り替えるたびにごみが出る上、新たな壁紙を生産するために資源とエネルギーを要する。建築資材販売のナガイ(長野県

飯田市)は2016年、パルプなどを主な材料にし、ポリエステルを加えて強化した不織布に塗装を施した「エコフリース」を開発した。商品は、無塗装の壁紙とパールホワイト、ローズピンクなど淡い色を中心に10色のフラットタイプ、白系2色の凹凸のあるエンボスタップがある。

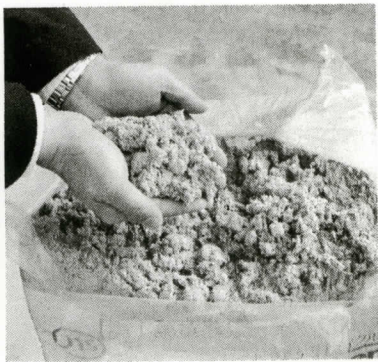


塗料を繰り返し塗り重ねて使える壁紙「エコフリース」(東京都内)

# 張り替え不要の壁紙、新聞紙の断熱材

エコフリースの特徴は、劣化しても剥がす必要がなく、自分で水性塗料を使って塗り重ねることができる。同社インテリア事業部営業担当の小澤傑さんは「摩擦や衝撃に強く、通気性が良く、結露やカビの発生を抑えます」と説明する。伐採、管理が行われている森林に由来する製品を示すFSC(森林管理協議会)認証も取得済みだ。

暑さ、寒さを防ぐ断熱材の分野では、新聞紙をリサイクルして作るセルロースファイバー(木質繊維)がある。セルロースファイバーのメーカー、デコス(山口県下関市)は新聞紙80%にホウ酸、ホウ砂、はっ水剤を加えた断熱材「デコスファイバー」を生産。セルロースファイバーの中に空気の膜ができるため熱や音が伝わりにくくなり、高い断熱性能を持つ。難燃性で温度調整する



原料の80%に新聞紙を利用したセルロースファイバーの断熱材。これを外壁と内壁の間に吹き込む(埼玉県飯能市のデコス関東工場)



新聞紙を粉砕した原料(左)とセルロースファイバー(右)埼玉県飯能市のデコス関東工場

機能にも優れている。11年には建築用断熱材として初めてカーボンフットプリント(CFP)プログラムの認定も取得した。CFPとは原材料の調達から廃棄、リサイクルまで全行程で排出される温室効果ガスの量を二酸化炭素に換算して表示する仕組みを指す。

一般的な断熱材と比べると、ガラス素材のグラスウールなど無機繊維系、ウレタンフォームなどの発泡プラスチック系が多い。セルロースファイバーのシェアは市場の3%程度にすぎないが、「自然素材を利用する工務店からの注文が多い」(田所憲一東京オフィス所長)という。16年には熊本地震の木造仮設住宅563戸に採用されるなど、公共施設での需要も期待されている。